

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------|--|---|---------------------|----------------------------------|
| I 理念に基づく運営 | | | | |
| 1. 理念の共有 | | | | |
| 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 法人としての理念を掲げており、地域密着サービスとしての理念は法人内2施設のグループホームで共有している。事業所独自としては別に目標として掲げ、併せて職員で共有している。 | | |
| 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 家庭的な雰囲気の中で、その人らしく安らぎのある生活を意識して、日々のケアに取り組みながら「心のふれあい」「信頼関係」等を大切にしている。 | | |
| 3 | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 定期的な広報誌を家族や近所の方々に配布している。 広報の写真については、入居者及び家族に記載の同意を得ている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | |
| 4 | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 買い物・散歩・理美容院利用時、通りがかりの方々等との顔見知りの関係作りに努めている。 | | |
| 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 当施設地区内に自治会がない。しかし、運営推進会議の中で、市町村の協力を得て行事に参加できるようになった。 年間の行事に参加できるように努めている。最近では、子供ペーロンの見学を行い、地元の人々と交流している。 | | |
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 運営推進会議で事業所の力を活かした地域貢献について、取り組みができるよう地域の人々と交流できる機会を増やしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|---|---------------------|----------------------------------|
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | それぞれが理解し、グループホームケアの質の向上に取り組む等、協力体制をとっている。 改善策を検討し、改善計画書を作成した。 自己評価を職員全員が実施し、自己の振り返り、改善項目の明確化に努めている。 | | |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者の活動状況表を参考にしながら、意見や助言・要望を頂きながらサービス向上に活かしている。 運営推進会議に参加して頂けるよう消防署へ依頼したが、参加されていない。 | | |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 運営推進会議を通じて行事への参加を行い、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。 子供ペーロンの見学に参加し、地域の人々と交流をしている。 | | |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 権利擁護に関する制度について、それぞれが理解し活用して支援している。 | | |
| 11 | ○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 母体である特養に、身体拘束委員会を設置しており、月1回の会議を行ない、防止に努めている。 清潮会全体で研修も取り入れている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所申し込み時、重要事項を説明し、十分な説明を行い、十分な説明を行い、十分な理解を頂いた上で、契約を締結している。 解約時と同じである。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|---------------------|----------------------------------|
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見、不満、苦情が寄せられた場合、迅速に対応し、職員間に徹底し、サービスの向上につなげている。 | | |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 日常生活、健康状態の変化があれば直ちに家族へ連絡し、面会時や電話、手紙で情報共有をしている。 月1回の請求書送付時に個々の状況等を作成し、送付している。 | | |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 無記名のアンケートを実施した。家族会をクリスマス会の後に行っている。また、意見箱を設置したりしている。また、苦情などあった場合は、職員会議などで話し合ったりしている。 | | |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回の職員会議を設け、発表できる場を作っている。 | | |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 勤務体制はできている。 | | |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 日頃から母体である特養に入居者と外出したり、スタッフとの馴染みの関係を重視したり、万が一異動になっても、入居者が混乱しないよう対応に配慮している。 | | |
| | 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員がそれぞれの段階に応じた研修を受講できるよう配慮している。 母体での研修は日程を複数設定し、スタッフ全員が参加できるよう配慮している。法人外の研修参加へも積極的に受けるよう機会の確保や、会議などでも伝達講習を行っている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んでい きたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 系列のグループホーム同士で相談し合い、交流を図っている。 | | |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 懇親会等には参加し、上司や同僚にはいつでも相談できる雰囲気作りを行なっている。 | | |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 日々の仕事の中で目標を具体化し、理解を深めるよう努めている。 | | |
| | Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 面接時、本人の希望や要望をよくお聞きするよう努めている。 | | |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 家族の意見・要望・心配等は把握し、理解に努めている。 | | |
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご家族やご本人によくお話を聞き、ご希望に沿ったサービスを提供できるよう取り組んでいる。また、施設の様子など説明した上でご本人がすぐ馴染めるような対応に努めている。 | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前の見学や面接は対応しており、火おなじみの関係を作りながら安心感を持ってもらえるよう支援している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んでいる項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|--|-------------------|----------------------------------|
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者の方より、介護する姿勢の指摘を受けたり、時にはお褒めの言葉を頂いたり、励まされたりと喜怒哀楽を共にしている。人生の先輩である利用者の言葉一つ一つの中から人生の教訓を学ぶ事ができるよう努めている。 | | |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 面会時や電話連絡の時等に、ご家族の方にご本人の事で協力してほしい内容をお伝えし、了解を得て信頼関係を築くようにしている。 | | |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 遠方におられるご家族、面会のないご家族にも絵手紙のハガキに近況の報告を添えて、定期的に送付している。ご家族からの返送もあっている。 | | |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 外出支援のお誘い、お盆、お正月の帰省、外泊等ご家族に積極的に働きかけている。 | | |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 利用者同士できる事を協力して頂きながら、一人一人がその人らしい生活をして頂けるよう支援している。 | | |
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 母体の施設へ行って顔を見せたり、ご家族から連絡があった場合は近況などをお聞きしている。依頼があれば、冠婚葬祭にも出席を行っている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|---|---|---------------------|--|
| | Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握 | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者ご本人の言動をしっかりと観察し、把握・理解してニーズを捉えるよう努めている。また、ご家族の相談・協力を得ながら、ご本人の希望にそえるよう支援している。 | ○ | 利用者に関わる全職員が、利用者ご本人の言動を日頃よりメモにする習慣をつけ(現在使用しているライフレビューノートの活用可)、お互いが見聞きした情報の共有をする事で、その方のニーズを捉えていくよう努めている。 |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | アセスメントに生活歴、入所に至るまでの経過の情報を記入している。また、それ以外にも会話の中から聞いた生活歴、情報はライフレビューノートに書き留めている。 | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 日々変化する利用者の方の感情・気分、行動等を観察し、職員の援助を統一する為にも、変化があれば迅速に情報を共有し話し合い、利用者にとってより良い支援が提供できるよう努めている。 | | |
| | 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 定期的にあセスメントを行い、毎日ご利用者、ご家族、各医療機関、各関係者とお話し、具体的な介護計画を立てている。 | | |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 定期的に見直しし、変化があればアセスメントを行い、状態の変化に即した計画を作成している。 | | |
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 一人一人細かく表情の変化や様子を記録している。また、言葉からノートに記入し、職員、ご家族へ情報を共有している。 排便チェック、薬の調整にも活かしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|--|---------------------|----------------------------------|
| | 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 面会による遠方から来所されたご家族については、本人と過ごして頂ける時間や空間を作り、談話室を利用して食事をとって頂いたりしている。また、通院介助の代行や、外泊・外出の支援等は本人・ご家族の状況に応じて柔軟に支援している。 | | |
| | 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 地域の図書館、地域の行事に参加している。 | | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている | 地域包括支援センターのケアマネジャーより、運営推進会議の中で、情報交換を行い、他のサービスが利用できるよう努めている。 | | |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進会議に地域包括支援センターの職員も参加しており、情報交換を行っている。また、現在、権利擁護を利用している利用者もおられる。 | | |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | どの医療関係とも適切な医療が受けられるよう情報交換を行い相談できている。 | | |
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 認知症の専門医師との関係を築きながら、ご家族と相談して介護記録を交換して診断や治療を受けている。 | | |
| 45 | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 協力医療機関として、田尾内科との契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談・助言、対応を行ってもらい、24時間の相談が可能になっている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|--|---------------------|----------------------------------|
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 日頃の相談、急変時の対応についても、主治医に電話連絡にすぐ応じて頂ける体制ができており、連絡は図られている。 | | |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化に伴う事を本人・ご家族にケアについて説明を行い、ご家族・医師を交えて状態の変化があるごとに本人の思いに注意を払い、支援につなげている。 | | |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 本人やご家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携をとり、利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。急変した時、すぐに対応して頂けるよう医療機関とも密に連携を図り対応している。 | | |
| 49 | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 利用者の環境や、暮らし方の変化によるダメージが最小となるようご家族の協力を得て取り組んでいる。 | | |
| | IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員は一人一人その場に合った声かけ等行っており、言葉の拘束にも注意を図っている。また、個人情報外部へ漏れないようにしている。記録物の保管は個人情報の取扱いを重視し、鍵のかかる所へ保管している。 | | |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 随時ケアプラン会議を行っており、ご本人の意志を尊重したものとなっている。この他に、要望があればその都度変更等行っている。 | | |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な一日の流れはあるが、一人一人にあった個別性のある支援を行っている。本人が望む墓参り、床拭きや選挙の投票、お経読みの支援などにも対応している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んで きたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|---|--|------------------------|----------------------------------|
| | (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | ご家族・ご本人と希望される店を相談し、ヘアースタイルもご本人が気に入るようにして頂いている。ご家族と一緒にいられる方はご家族にお任せしている。また、洋服の購入などは行きたいお店に行っている。 | | |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の担当者はご利用者の目線で食事を考えている。また、準備や調理のお手伝いを行って頂いたり、片付け等一緒に行っている。 | | |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 食べたい物の制限はしていない。希望があれば、お菓子を買いに行ったりしており、好きな物を楽しめるようになっている。 | | |
| 56 | ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄失敗があれば、ご本人のプライドを損なわないように声かけ誘導を行っている。また、便秘時には主治医・家族と相談行い、便秘薬を使用している。しかし、毎日服用するのではなく、なるべく身体を動かす機会を取り入れ、排泄の誘導 | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 本人・ご家族より情報収集し、午後からの入浴だけでなく好きな時間に入浴されたいかお聞きしたところ、今のところは特に希望は聞かれていない。しかし、時間帯によっては難しい場合もあるが、シャワー浴・部分浴・清拭等で対応している。 | | |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | ソファなどもあり、また、入居者への行き来も可能な為、ご要望に合わせて休息をとって頂いている。 | | |
| | (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 以前好きだった編み物や塗り絵など、日常の中で行って楽しんで頂いている。また、食器洗いや洗濯物干しなど、自ら行われておられる。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|---|---|---------------------|----------------------------------|
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の管理ができる方は自由にお金を持って頂いており、買い物を楽しまれている。 | | |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 希望があれば散歩やドライブへ出掛けている。また、ドライブは毎日行っているのが喜ばれている。 | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 毎月の行事を設けており、その中で遠出するなどもある。また、御家族と一緒に外出されたりと楽しまれている。 | | |
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 絵手紙教室を毎月行っているのをそれを活用し、ご家族に郵送している。電話は要望があればその都度掛けて頂いている。 | | |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | ご家族やお知り合いの方にいつでも気軽にいらして下さい、と声かけている。 | | |
| | (4) 安心と安全を支える支援 | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 毎月1回、身体拘束委員会を設け、勉強会、知識の育成に取り組んでいる。精神的拘束は行っていないと思われる。 | | |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は鍵をかけないで、自由に行き来が可能である。万が一入居者が外出しようとしてもさり気なく一緒に付き添い、誘導している。近隣のガソリンスタンドや住民にも理解を求め、見守りの体制ができている。 | | |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 一人一人の位置を把握しており、また、監視されていると思われないように最低限の行動をとっている。また、夜間は決まった時の巡回を行い、安全確認に努めている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んでい きたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|-------------------------|--------------------------------------|
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 危険な物を全て取り上げるのではなく、使用する時はお渡しし、使用されない時は元の場所へしまっている。また、異食される方も居られるので、一人一人の状態に合わせている。 | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 毎月、事故・ヒヤリはっと委員会を設けており、どのようにしたら防げるか検討したりしている。また、研修なども通じて知識を学んでいる。 | | |
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 母体全体で訓練の研修を受けている。 | | |
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 毎月1回、昼・夜想定避難訓練を行っているが、地域の人々と一緒に行うまでにはなっていない。 | | ご利用者と一緒に警察署等へ行き、施設を知って頂けるよう挨拶を行っている。 |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 母体での身体拘束委員会を通じ、利用者のリスクに対する事を話し合い、職員会議にて職員間にそのリスクについて報告し深めている。また、ご家族と小まめに近況報告など行い、その人らしい生活を送って頂けるように話し合っている。 | | |
| | (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | バイタルチェック・表情の有無などチェックし、異変に早く気付く事ができるように対応している。 | | |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医師より新しく処方が出た時は、確認して注意事項を把握し、服用後の変化などに気を付けている。 | | |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 医師と相談を行い、服薬の調整をし、食べ物など工夫しながら散歩や買い物を行っている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|---|--|---------------------|----------------------------------|
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後、口腔ケア・入れ歯の消毒を行い、一人一人の口腔状態を把握し、必要であれば歯科受診をして頂き、消毒を受けている。 | | |
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 母体の特養の栄養士に、栄養バランスなど確認してもらい、糖尿病食などの治療食への対応を学んだりしている。 水分量・食事摂取量を個別に対応し、職員間で情報を共有している。 | | |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 母体全体で感染衛生委員会を設置しており、毎月1回委員会を行い、感染に対する予防の取り決めがあり行っている。研修も合っている。 | | |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 感染衛生委員会より調理器具など決められた消毒で行い、食材の使用についても決められた使用方法で行っている。 | | |
| | 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 季節に合った飾り付けを工夫しながら家庭的な雰囲気にしたりと努めている。 | | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家庭的な雰囲気の中で生活して頂けるように、季節ごとの花や歌の歌詞、飾りつけなど置いたり、貼ったり工夫している。 | | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 一人でも過ごして頂けるよう共有空間とは別にソファー、畳、テーブルを置いている。 | | |
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族への声かけを行い、仏壇や整理タンスや手作りの写真立てなど使い慣れた物を使用して頂いている。カーテンの柄も本人・ご家族に選択してもらっている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組んでい きたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|---|-------------------------|----------------------------------|
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 換気は小まめに行い、温度調整なども一人一人と話しながら行うようにしている。 | | |
| | (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している | 一人一人に合った歩行訓練、段差・階段を活用して自立した生活を送れるよう努めている。 | | |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 分かる力を発揮できるよう言葉かけを工夫しながら支援している。 | | |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | ベランダでは洗濯物干しをして頂いたり、プランターで野菜、花などを育てて頂けるよう支援している。 外気浴なども行っている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける) |
|------------------------|-----------------------------------|---|
| v サービスの成果に関する項目 | | |
| 88 | ○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | 《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない |
| 90 | ○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | 《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない |
| 91 | ○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | 《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない |
| 92 | ○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | 《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない |
| 93 | ○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | 《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない |
| 94 | ○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | 《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない |

| 番号 | 項目 | 取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと) |
|-----|--|---|
| 96 | ○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている | 《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない |
| 95 | ○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | 《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない |
| 96 | ○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている | 《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない |
| 97 | ○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | 《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない |
| 98 | ○職員は、生き活きと働いている | 《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない |
| 99 | ○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない |
| 100 | ○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない |